

保育における植物の考察Ⅳ

○石田高幸 大沢 カ 加藤輝夫
(わせた幼稚園) (七尾幼稚園) (まきやま幼稚園)

わせた幼稚園における樹木と保育の関わりについての
検討(Ⅱ)

目黒徹三 山内 昭道
(大川幼稚園) (東京家政大学)

I 研究の目的

最近、環境としての森林の有効性が見なおされている。

それは、生活資材としての木材資源としてだけでなく、森林が大気における酸素の再生産や樹木から人間の健康に影響を与える物質の発散が認められ、森林浴ということばが作られている。

園庭における樹木についても、景観美としてだけでなく大気浄化としても大きな役割を働いていることを検討すべき今後の研究課題である。

本研究は、園庭における樹木と保育とのかかわり、つまり、幼児のあそびを豊かにする環境としての樹木を考察するために、継続して検討してきたものである。

今回は、園庭の樹木と保育とのかかわりを実践的に考察し、樹木の特性と幼児とのあそびの展開について検討する。

II 研究の経過と結果

昭和55年10月にすでに植栽されていた樹木に加えて果樹を中心として補植した。

昭和57、58年の2年間に於ける園庭での樹木と保育のかかわりについて、子どもたちのあそびの記録を検討してみることにした。

1. 樹木とあそびの展開

園庭の樹木とあそびについて、まとめてみると表1のようになる。

特に、開花期、落葉期、結実期などの目立つ時期に園庭散歩を行い、花を見たり、香りをかかせたり、どんな果物になるかなど、関心を持たせるようにした。

2. 開花の移り変わりや花とのかかわり

4月より木々の花が、咲き続けて行くように樹木を植え、花とのあそびが連続的に展開し、発展していったかどうかを検討した。

サクラ → モモ、スモモ、サクランボ → ヤエザクラ → フジ、ミカン、フドウ、クミ、カキ、ヒメリンゴ、→ シュロ、→ ザクロ、→ サザンカ → ウメ → モクレン → ジンチョウゲ

自由なあそびの中で幼児の行動観察について、不十分であり、幼児の発達経過を十分にとらえることができず、今後の調査が必要である。

3. 連続的な保育展開としてのミカン

果物、ミカンは、誰れも知っていて誰れにでも好まれ、好ききらいを言われずに食することができ、最も身近にある果物といえることができる。又、開花、結実成長、成熟といった過程がは、まりと確められ、子どもたちに興味を持たせるに十分対応が出来、一本の木になる果実数も数多く、成熟後は茎で十分に食す量にたりる。又、病虫害に対しても少しの注意で対処でき管理しやすく、冬場に向かい花のない時期に、オレンジ色に熟した果実は園庭の美しさに花とそえるもので環境の美化にもなってくるので、昭和57年度の卒園記念樹として植樹し、4月よりその成長を見るために、子どもたちと一緒に世話をし観察していく計画を立てる。植樹数 3、苗の大きさ 高さ 60cm 枝まわり 1cm、枝ぎ木した果実のあるものを植樹した。(図1)

対象児 5才児、2クラス

ミカンの栽培は、初めてであり、地域的に開花～収穫時期等の目せすが確定できない為、果樹作り等の本を基準資料として計画を立てる。

5月中旬 開花

6月初旬 結実

11月下旬 成熟(収穫)

4月中旬

クラス内も落つき、草花、木々の花も開花しており、園庭内にある花、木々の名前を知らせる為に散歩に出る。主に果実を中心に行う。開花は、サクラ、モモ、スモモ等で、草花では、パンジー、デージー、チューリップ等であった。花に鼻を近づけさせ香りをかかせる。各々がどんな香りをしたかを聞く、あいにくミカンの開花はまだであったため、ミカンの木だと指名しても、イメージとして、今一つピンとこない様子であった。興味、関心を持たせるには、不十分であった。

5月中旬 ミカンの開花

ミカンの花も、濃い緑色の葉の間から白い花を茨山のどかせている。園内の開花の変化を知らせる為に、散歩、開花は、フジ、カキ、ミカンであった。花を見て香りをかかせる、ミカンの香りがしてミカンの木であることを確かめることが出来、より身近にミカンに



表1

※()内は あそぶ昆虫名

	樹木名	開花期	収穫期	遊びの対象(花びら、がく、葉、種子、果子、香)
常 葉 樹	ヒノキ			冬の姿を見る
	スギ			冬の姿を見る
	ヒマラヤスギ			冬の姿を見る
	シュロ	5月下旬	7月上旬	葉でうちわ、実でままごと
	ツツジ	6月上旬		花蜜をすう
	アオキ	9月中旬	12月～1月	実でままごと、数あて
	サザンカ	10月～11月	5月	花びら集め、ままごと
落 葉 樹	ジンショウゲ	3月～4月		香り
	サクラ	4月上旬		花びら集め、葉ままごと、造形あそび(アメリカヒロシトリ)
	ヤマザクラ	4月下旬	6月	葉ままごと、造形あそび
	ヤエザクラ	5月上旬		花びら集め、葉ままごと、造形あそび
	ハナミズキ	5月上旬		花びら集め
	フジ	5月中旬	7月	花びら集め ままごと 実ままごと(アメリカヒロシトリ)
	イチヨウ		10月	葉で造形あそび
果 樹	ヤナギ			枝でターザンあそび(アメリカヒロシトリ)
	モクレン	3月下旬		香り
	モモ	4月中旬	6月下旬	食用 落果であそぶ
	サクランボ	4月中旬	6月中旬	食用 葉で造形あそび
	スモモ	4月中旬	7月上旬	食用 落果であそぶ
	ミカン	5月中旬	11月	食用 落果であそぶ あぶりだし(アゲハチョウ)
	クミ	5月中旬	7月	食用
	ブドウ	5月中旬	8月下旬	食用(コガネムシ類)
	カキ	5月中旬	10月中旬	食用 花ネックレス、ままごと、薬人形づくり
	ヒメリンゴ	5月中旬	10月中旬	果実ままごと
	ザクロ	6月	11月上旬	食用
	ウメ	2月	6月	香り、落果であそぶ(アメリカヒロシトリ)

ちぎり捨てられ木には果実がなくなってしまう。捨てられている果実をもって来て、皮をむきミカンであることを確かめ香りをかぎ、収穫までに至らずに終りになった。

12月中旬

7月に果実がもぎ取られ収穫までに至ることが出来なかった為、収穫の味いませたく、成木、樹高1.5m、枝まわり4mの移植を行い、果実のなっている株を観察させ、収穫したい気持ちが熟した時を見はからって、収穫を行った。子どもたちの顔には、満足感が満ちあふれていた。

4. 昆虫の誘致
— 幼虫の発生

樹木によっては、

近づけたようであった。

5月下旬 結実

花の盛りも終りに近づき、木々のまわりには黄色く色あせた花びらが散り落ちていく。子どもたちをミカンの木のまわりにつれて行き、花が散り、実が結んでいることを気づかせる。まだまだヘタの先に小エ、果実ミカンとして程遠い感じであるが、枝々の先に小さな実が付いている。ミカンの赤ちゃんと呼んで理解していたようである。

6月中旬 生理的落果

受精しなかった実が変色して落下し、不思議さを感じている様子が見え始める。

果実の大きさは、7～8mm位に成長している

7月中旬

受精した果実は、定着し成長してミカンの形をなして来た。ミカンの木であり、果実であることを確かめた感じである。しかし、何者かに、いたずらに実を摘み

チョウ、ガの幼虫の食草となるものもあり、幼児たちの観察の対象となる。ここでは、アメリカヒロシトリ、アゲハがもっとも幼児たちの興味関心をもちたものであった。

アメリカヒロシトリは、サクラ、ヤナギ、フジに発生した。アゲハはミカンに発生した。特にアゲハは、飼育を年2回行い越冬もした。

ブドウには、コガネムシ類が食害し、幼児たちのあそび相手となったが、体が硬く、幼児に扱い易く丈夫なことが利点と考えられる。

その他、幼児の気のつかない昆虫の発生もあった。

III 今後の課題

樹木は、幼児の環境であそびの対象として必要なものと考えられるが、なお、ここに示した樹木の個々の特性と幼児とのかわりを明確にするとともに、その他の木々についても検討し、樹木と保育について考察することが必要である。